



大 地

令和7年10月号

校長 指崎 邦久

柔らかなピンク色のコスモスが風に揺れています。学校近くの街路樹が色付き始め、秋が足早に進んでいることを実感しています。子供たちは、相手の方を向いて話を聞こうとしたり、自分の思いを話そうとしたりするようになってきています。お互いの気持ちがこもった言葉を大切にしながら関わることができるように指導していきます。



先日行いました学習発表会にはたくさんのみなさんに子供たちの頑張る姿を見ていただきました。今年度は、学年の発表ごとに保護者の方に入れ替わってもらいました。短い時間にもかかわらずスムーズに入れ替わっていただき、発表会を円滑に進行することができ、その後の活動に余裕をもつことができました。観客席から子供たちの発表を温かく見守ってくださる横顔もありがたかったです。「たくさん拍手をもらえてうれしかった」という子供の声をいくつも聞いています。発表を温かく見守っていただきありがとうございました。

今年の学習発表会のテーマは「笑顔と感動のあふれる最高の舞台」でした。児童会の子供たちが中心になって考えました。児童会の子供たちは、学習発表会を盛り上げようと練習の段階から学習発表会へ向けて頑張っていることを給食時の放送で紹介して、最高の舞台になるように努めてきました。

練習を始めたころは思ったようにできなくて悔しい思いをした子供もいたようです。それでも、友達と一緒に練習を繰り返す中でできなかったことができるようになり、頑張って発表しようという気持ちを高めていったようでした。

学習発表会では、各学年が特色ある発表をしました。発表に臨む子供たちの生き生きとして、引き締まった横顔に一人一人の成長を感じました。学習発表会を振り返ってのアンケートでは、「発表がうまくできたから楽しかった」「練習したことを精いっぱい発表することができたから最高の舞台にできた」という声が多く聞かれました。積み重ねた練習の成果を発揮できて、充実感を味わったようでした。子供たちの衣装等は、ステージで存在を際立たせたり、子供をその気にさせたりしました。また、練習を重ねる中で、ご家庭での温かい励ましや支えがあったから、頑張ろうという気持ちを持続することができました。子供



5年生の発表

の頑張りが、大人の支えがうまくかみ合った成果でもあります。本当にありがとうございました。

学校では、この機会を大切に、今後も、子供も大人も一緒に挑戦できるように取り組んでいきます。引き続き、ご理解とご協力をお願いします。



1年生の発表



2年生の発表



3年生の発表



4年生の発表



6年生の発表

楽しかった、ふれあい祭り

昨年に引き続き、学習発表会の午後から、ふれあい祭りが行われました。育友会のみなさんが、子供たちに楽しい思いをさせたいと、何回も打ち合わせをし、綿密な計画を立ててくださいました。たくさんの方の準備のおかげで当日を迎えました。子供たちは縦割りグループごとにクイズを解いたり、ゲームをしたりして楽しみました。上級生が下級生を気遣う姿や、子供と大人が一緒に笑っている姿がみられました。子供たちにとって、後から思い返すことができる楽しい思い出の一つになったと思います。

企画・準備いただいたみなさんに改めてお礼申し上げます。

体育館でゲームをしました



箱の中身は？

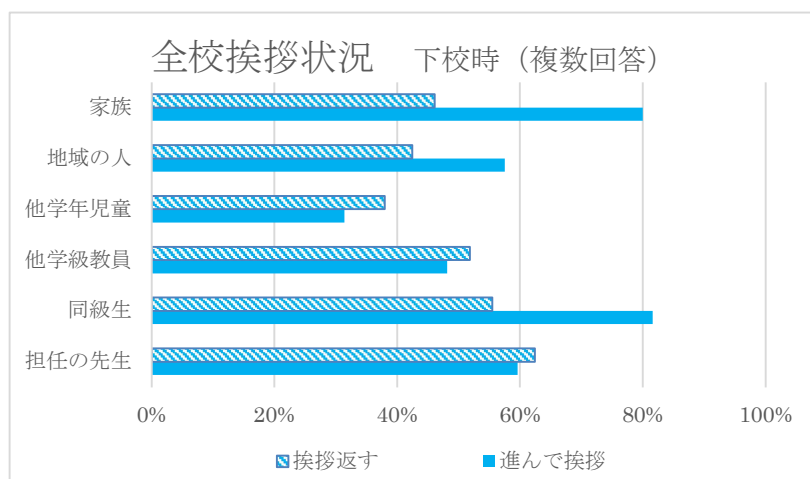


問題を解きました

いろいろな車両に乗りました



気持ちのよい挨拶を広げよう



先月の学校だよりで途中経過を報告しましたが、挨拶に関するアンケート調査の結果の概略を紹介します。左のグラフのように対象を設定し、挨拶を進んでしているか、返しているかを尋ねました。

家族と同級生には、約80%の子供が進んで挨拶をしていると答えました。挨拶を返してもらえると安心感があるのだろうかと思いました。地域の人にも60%近くの子供が進んで挨拶をしていると答え、半

数以上の子供が地域の人にも関わろうとしていることが分かりました。また、自分の挨拶を振り返って、39%の子供が「誰にでもできる」、34%の子供が「仲のよい友達にできる」と答えた一方、「恥ずかしい(3%)」「面倒である(4%)」ことを理由に挨拶ができないと答えた子供もいました。

子供たちの挨拶の仕方もさまざまであるという地域の方の声も聞かれました。今後も、挨拶の指導を継続し、社会性の基礎を育てていきたいと考えています。

－宿泊学習－

9月18～19日に6年生が、10月16～17日に5年生が、能登青少年交流の家で宿泊学習を行い、野外炊飯や様々な体験活動をしました。初めての宿泊学習であった5年生も、楽しかったと教えてくれました。5・6年生ともに宿泊学習を通して、話を聞く姿勢に大きな変化がみられました。また、依然と比較すると甘えていた部分がそぎ落とされたように感じられました。行事でできたことに自信をもって、これからも一緒に挑戦していきたいと思っています。

